

第2章 基本計画

1 基本方針

2 キャッチフレーズ

3 まちづくりの柱

1 基本方針

平田地区のまちづくりは、従来から自治会連合会を中心とした様々な団体や組織で行われており、すでに成熟した形で自治組織が自主的に運営してきました。

しかし、新しい地域課題に対応するためには、このような各種団体やまちづくり協議会が協力し合い、まちづくりにおける役割を果たし、持続的な活動を進めていく必要があります。

まちづくり協議会は、地区の課題を住民自らが掘り起こし、地区住民が共有するまちづくりの目標に向かって、各種団体等と連携して活動でき、多くの住民が自由にかかわることのできる組織づくりを行います。また、平田地区の歴史・文化的資産を見つめ直し、先人たちの足跡をたどりながら、住民一人ひとりの個性が尊重され、元気な活力のあるまちづくりを行います。

2 キャッチフレーズ

「歴史と水と緑あふれる平田地区、夢を語り未来につなごう！」

3 まちづくりの柱

◆ いきいき交流のまちづくり

社会基盤で第一の課題としてあげられるのが、少子高齢化とそれに伴う人口減少です。通勤圏内に就業しているにも関わらず若い世代が地域を出ていくことは、地区内の少子高齢化をより一層進展させます。若い世代が住み続けたいと思う魅力ある地域にしていく必要があります。

生活様式や価値観が多様化してきている中で、地区内には伝統を守り育てる姿勢が古い慣習として残り、若い世代が住み続けたいと思う魅力に欠ける面が見受けられます。柔軟な姿勢で多様な生活スタイルを互いに認め合うことが必要です。

また、暮らし易さの面からも交通基盤の整備も待たれます。近く設置が予定される蒲生スマートインターやそれに伴う県道の整備、また都市計画街路近江八幡八日市線の整備により他の地域との交流がより活発化し、住環境としても魅力ある地域となることが期待されます。

- 世代間が交流し、認め合うまちづくりを進めます。
- 地域間が交流し、豊かな生活基盤を整えます。
- コミュニティセンターやトレーニングセンターをまちづくり協議会で管理し、地域活動がより活性化する地域交流の拠点づくりを目指します。
- まちづくりの情報発信を行います。

◆ 安全・安心のまちづくり

農村地域とはいえ、近年犯罪の増加が見られます。また、子ども達の登下校時の安全が脅かされています。地域での見守り体制を確立し、地域の安全・安心は地域住民で守っていかなくてはなりません。

また、自動車の増加に伴い歩道整備など通学道路の安全がより一層求められており、防犯灯の計画的な設置を含めハード面での整備が急がれます。

一方、全国的にも各地で集中豪雨や地震、台風などで大きな災害が頻発しており、このような災害への備えも必要となっており、今までにも増して地域のつながりを強くしなければなりません。

- 地域住民の交流を深め、防犯体制を確立します。
- 通行危険場所などを調査・点検し、誰もが自由に行動できる生活環境を整えます。
- 地域の見守隊により、子供たちの安全・安心の確保に努めます。
- 各自治会における自主防災組織づくりを進めます。

◆ 先人と語り、未来に誇れるまちづくり

雪野山歴史公園や華岳山公園の管理をまちづくり協議会が指定管理により行うこととなり、こまやかな点にまで目の行きとどく管理が出来るようになっていきます。雪野山や瓶割山などに手を加え、雪野山古墳群や瓶割城址をはじめとした史跡などを多くの人たちが気軽に訪れていただけるようにします。

- 地域の歴史・文化を調べ、史跡や社寺を訪ね歩くルートを広く紹介します。
- 雪野山や瓶割山山麓一帯に散策路を整備します。
- 雪野山歴史公園や華岳山公園の管理をまちづくり協議会が指定管理により行い、地域の利用者にとってより使いやすい施設となるように工夫を重ねます。

◆ 豊かな自然、うるおいと活力が満ちるまちづくり

平田地区で誇れるものとしては、緑あふれる田園風景や自然景観があげられます。しかし、近年、イノシシやシカ、サルなどの獣害も頻繁に発生するようになっており、農作物への被害も多くなっています。自然を放置するのではなく、一定の管理を行い獣害などの発生を抑制しなければなりません。

一方、農業就業者の高齢化が叫ばれはじめて 20 年以上が経過します。当時に比べても高齢化はさらに進展し、また農家戸数の減少も見受けられます。近年は、集落営農に取り組む集落や大規模化に取り組む担い手農家も出始めており、それぞれの地域に応じた営農体系の合理化が少しずつではありますが進展しています。また、地場産野菜などの朝市開催も定着してきており、地産地消の推進や地域農業の担い手による農地や農村景観の保全が期待されます。

- 魅せる農業を展開し、地域の特産づくりを進めます。

- 地域で生産された作物を地域で消費する地産地消を進めます。
- 山道の整備や竹林の伐採、下草刈りを行うなど、里山再生を進めます。
- きれいな水路を再生し、美化に努め、魚のすめる水環境を整備します。
- 環境に配慮した資源循環型生活環境の実現に努めます。

◆ 子育てを地域で応援するまちづくり

子育てをするうえで以前と変化してきた点としては、共働き世帯の増加と核家族化があげられます。また、少子化に伴い子供会活動や PTA 活動、幼稚園への送り迎えなどで、保護者一人ひとりにかかる負担が増加してきており、悩みなどを相談しあえる仲間が減少してきています。

さらに、子どもたちも同年齢や異年齢の友達との交流の場が少なく、仲間遊びの機会が少なくなってきました。

子どもは地域の宝です。子どもたちが健やかにのびのびと育つよう、また、安心して子育てができるよう、隣近所や地域のつながりを密にし、地域の子どもたちは地域で育てるといった思いをより強くし、子育てを応援していかなくてはなりません。

- 幼い子供を抱える親同士が交流し、育児に対する悩みや不安、喜びなどを自由に情報交換できる場を提供します。
- 未就園の子ども同士と一緒に遊べる場を提供します。
- 子どもたちが地域の自然の中で遊び、学べる活動に取り組みます。

◆ 元気で長生き、長寿を喜ぶまちづくり

少子化とともに高齢者の増加は地域の課題として取り上げられています。長寿そのものは課題としてとらえられるべきものではありませんが、高齢者の増加に伴い、介護の問題や健康管理、生きがいといった様々な対策が必要です。

平田地区には介護施設は全くなく、福祉施設も十分ではありません。すべての人たちが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができるよう、地域が助け合う福祉のまちづくりを進めます。

- ひとり暮らし等の高齢者が地域で孤立することのないよう、ふれあいのしくみづくりを推進します。
- 高齢者の持つ技能や知識を活かし、地域活動にかかわってもらえるシステム作りを進めます。
- ウォーキングやふれあいサロンなどで認知症や寝たきりの予防のための健康づくりを推進します。